

(様式第10)

国 循 発 総 第 20100501 号
令 和 2 年 1 0 月 5 日

厚生労働大臣 田村 憲久 殿

開設者名
国立研究開発法人国立循環器病研究センター
理事長 小川 久雄 (印)

国立循環器病研究センターの業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3第1項及び医療法施行規則（昭和23年厚生省令第50号）第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和元年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒 564-8565 大阪府吹田市岸部新町 6 番 1 号
氏 名	国立研究開発法人国立循環器病研究センター

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

国立研究開発法人 国立循環器病研究センター

3 所在の場所

〒 564-8565 大阪府吹田市岸部新町 6 番 1 号	電話(06) 6170-1070
-------------------------------	--------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
② 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	☒ 有 ・ ☐ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
① 呼吸器内科	2 消化器内科
5 神経内科	6 血液内科
9 感染症内科	10 アレルギー疾患内科またはアレルギー科
	③ 循環器内科
	7 内分泌内科
	4 腎臓内科
	8 代謝内科
	11 リウマチ科
診療実績	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	☒ 有 ・ ☐ 無
外科と組み合わせた診療科名	
1 呼吸器外科	2 消化器外科
3 乳腺外科	4 心臓外科
5 血管外科	⑥ 心臓血管外科
7 内分泌外科	8 小児外科
診療実績	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
- 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

① 精神科	② 小児科	③ 整形外科	④ 脳神経外科	⑤ 皮膚科
⑥ 泌尿器科	⑦ 産婦人科	8 産科	9 婦人科	⑩ 眼科
⑪ 耳鼻咽喉科	⑫ 放射線科	13 放射線診断科	14 放射線治療科	⑮ 麻酔科
16 救急科				

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	☒ 有 ・ ☐ 無
歯科と組み合わせた診療科名	
1 小児歯科	2 矯正歯科
③ 口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
- 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 循環器リハビリテーション科	2 病理診断科	3 小児循環器内科	4 小児心臓外科	5 腎臓内科・人工透析内科
6 糖尿病・脂質代謝内科	7 循環器救急科	8 移植外科	9 移植内科	10 心臓血管内科
11 脳血管内科	12 脳神経内科	13	14	15
16	17	18	19	20

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精 神	感染症	結 核	療 養	一 般	合 計
床	床	床	床	550 床	550 床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	148 人	129.0 人	249.1 人	看護補助者	26 人	診療エックス線技師	人
歯科医師	1 人	1.0 人	1.8 人	理学療法士	20 人	臨床検査技師	69 人
薬 剤 師	43 人	4.0 人	46.2 人	作業療法士	4 人	衛生検査技師	人
保 健 師	人	人	0.0 人	視能訓練士	1 人	その他	人
助 産 師	26 人	1.0 人	26.8 人	義肢装具士	人	あん摩マッサージ指圧師	人
看 護 師	656 人	14.0 人	666.9 人	臨床工学士	29 人	医療社会事業従事者	6 人
准看護師	人	人	0.0 人	栄 養 士	3 人	その他の技術員	52 人
歯科衛生士	1 人	1.0 人	1.7 人	歯科技工士	人	事 務 職 員	181 人
管理栄養士	8 人	9.0 人	15.2 人	診療放射線技師	42 人	その他の職員	357 人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総 合 内 科 専 門 医	25 人	眼 科 専 門 医	人
外 科 専 門 医	16 人	耳鼻咽喉科専門医	人
精 神 科 専 門 医	人	放 射 線 科 専 門 医	5 人
小 児 科 専 門 医	9 人	脳神経外科専門医	7 人
皮 膚 科 専 門 医	人	整 形 外 科 専 門 医	人
泌 尿 器 科 専 門 医	人	麻 酔 科 専 門 医	7 人
産 婦 人 科 専 門 医	7 人	救 急 科 専 門 医	人
		合 計	76 人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (飯原 弘二) 任命年月日 令和 2 年 4 月 1 日

平成30年4月より平成31年3月まで九州大学病院医療機器安全管理専門委員会委員長として医療安全管理者の業務を経験している。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	409.5 人	0.0 人	409.5 人
1日当たり平均外来患者数	405.6 人	23.5 人	640.4 人
1日当たり平均調剤数	1,164.2 剤		
必要医師数	72.0 人		
必要歯科医師数	2.0 人		
必要薬剤師数	25.0 人		
必要（准）看護師数	228.0 人		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施 設 名	床面積	主要構造	設 備	概 要
集中治療室	1,211.69 m ²	鉄筋コンクリート	病 床 数	53 床
			人工呼吸装置	☒ 有 ・ ☐ 無
			その他の救急蘇生装置	☒ 有 ・ ☐ 無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積	81.14 m ²	病床数	3 床
			病床数	床
	[移動式の場合] 台 数	台		
医 薬 品 情報管理室	[専用室の場合] 床面積	49.73 m ²		
	[共用室の場合] 共用する室名			
化学検査室	396.08 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	全自動臨床検査システム、尿分析装置
細菌検査室	173.95 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	PCR検査システム、パルスフィールド、電気泳動システム
病理検査室	174.85 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	電気泳動装置、自動染色装置
病理解剖室	47.30 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	電子顕微鏡、超低温フリーザー
研 究 室	192.16 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	SPECT/CT、タンパク質ペプチド質量分析装置
講 義 室	691.72 m ²	鉄筋コンクリート	室数	3 室
図 書 室	59.41 m ²	鉄筋コンクリート	室数	1 室
			収容定員	504 人
			蔵書数	10,000 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率		83.9 %	逆紹介率	76.5 %
算出根拠	A：紹介患者の数	7,570 人		
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	8,738 人		
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	2,009 人		
	D：初診の患者の数	11,421 人		

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
小島 崇宏	大阪M&A法律事務所	○	法律に関する識見を有する	☐ 有 ・ ☒ 無	1
國子 克雄	心を守る会（患者代表）		医療を受ける者の代表	☐ 有 ・ ☒ 無	2
大西 佳彦	国立循環器病研究センター副院長		医療安全部外の立場からの監査	☒ 有 ・ ☐ 無	3
				☐ 有 ・ ☐ 無	
				☐ 有 ・ ☐ 無	
				☐ 有 ・ ☐ 無	
				☐ 有 ・ ☐ 無	

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	☒ 有 ・ ☐ 無
委員の選定理由の公表の有無	☒ 有 ・ ☐ 無
公表の方法	
病院ホームページにて公表	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
偽腔拡大に対する血管内治療 大動脈解離(術後に偽腔が拡大したものに限る。)	2人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	大動脈解離術後の偽腔拡大に対する血管内治療	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 慢性大動脈解離に伴う、残存する胸腹部大動脈の拡大において、小口径のステントグラフトによるエントリーの閉鎖を施行し、偽腔への血流を遮断する。			
医療技術名	生体弁機能不全に対する経カテーテル生体弁植え込み術	取扱患者数	83人
当該医療技術の概要 生体弁機能不全に対する経カテーテル再弁置換の施行開心術のリスクが高い生体弁機能不全患者に対する経カテーテル生体弁植え込み術。			
医療技術名	ロボット補助下僧帽弁形成術	取扱患者数	100人
当該医療技術の概要 手術補助ロボット「ダヴィンチ」による低侵襲で僧帽弁形成術を実施しており、現在、プロクターとしては本邦4人中2人がセンター医師である。			
医療技術名	脳血管病に対するハイブリッド手術	取扱患者数	66人
当該医療技術の概要 単独治療法での対応が困難な頸部頸動脈複合病変や複雑な脳動脈瘤に対して、ハイブリッド手術室での複合治療。			
医療技術名	脳梗塞急性期患者を対象としたJTR-161による細胞治療	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 他家ヒト(同種) 歯髄由来幹細胞からなる再生医療等製品により神経保護作用、免疫調整作用等により、脳梗塞急性期への治療効果が期待される。			
医療技術名	IASDシステムIIIによる心不全患者における上昇した左心房圧の低減	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 左室駆出率が保たれた、または中程度の心不全患者において、標準的なカテーテル法によって心房中隔にインプラントを留置し、永久的にシャントを形成することで左房→右房の血流を実現し、左房圧を低減することで心不全症状の軽減やQOLの改善をはかる。			
医療技術名	癒着防止材「BAX602」を用いた体外設置型補助人工心臓装着後の心臓大血管周囲癒着防止	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 心原性循環不全に対して開胸下に補助人工心臓装着術 を施行する患者を対象として、BAX602により心臓・大血管表面散布により癒着防止をはかる。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	1	56	ベーチェット病	21
2	筋萎縮性側索硬化症		57	特発性拡張型心筋症	1399
3	脊髄性筋萎縮症		58	肥大型心筋症	839
4	原発性側索硬化症		59	拘束型心筋症	84
5	進行性核上性麻痺	6	60	再生不良性貧血	6
6	パーキンソン病	179	61	自己免疫性溶血性貧血	7
7	大脳皮質基底核変性症		62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	
8	ハンチントン病		63	特発性血小板減少性紫斑病	3
9	神経有棘赤血球症		64	血栓性血小板減少性紫斑病	2
10	シャルコー・マリー・トゥース病	1	65	原発性免疫不全症候群	3
11	重症筋無力症	14	66	IgA 腎症	91
12	先天性筋無力症候群		67	多発性嚢胞腎	47
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	7	68	黄色靱帯骨化症	15
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	3	69	後縦靱帯骨化症	15
15	封入体筋炎	2	70	広範脊柱管狭窄症	
16	クロウ・深瀬症候群		71	特発性大腿骨頭壊死症	3
17	多系統萎縮症	4	72	下垂体性ADH分泌異常症	12
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	4	73	下垂体性TSH分泌亢進症	3
19	ライソゾーム病		74	下垂体性PRL分泌亢進症	20
20	副腎白質ジストロフィー		75	クッシング病	11
21	ミトコンドリア病	4	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	1
22	もやもや病	506	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	9
23	プリオン病	1	78	下垂体前葉機能低下症	
24	亜急性硬化性全脳炎		79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	20
25	進行性多巣性白質脳症		80	甲状腺ホルモン不応症	
26	HTLV-1関連脊髄症	1	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	
27	特発性基底核石灰化症		82	先天性副腎低形成症	2
28	全身性アミロイドーシス	25	83	アジソン病	6
29	ウルリッヒ病		84	サルコイドーシス	59
30	遠位型ミオパチー		85	特発性間質性肺炎	118
31	ベスレムミオパチー		86	肺動脈性肺高血圧症	298
32	自己食食空胞性ミオパチー		87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	34
33	シュワルツ・ヤンペル症候群		88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	382
34	神経線維腫症	8	89	リンパ脈管筋腫症	3
35	天疱瘡		90	網膜色素変性症	1
36	表皮水疱症		91	バッド・キアリ症候群	
37	膿疱性乾癬(汎発型)	2	92	特発性門脈圧亢進症	8
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	5	93	原発性胆汁性肝硬変	39
39	中毒性表皮壊死症	2	94	原発性硬化性胆管炎	1
40	高安動脈炎	44	95	自己免疫性肝炎	12
41	巨細胞性動脈炎	1	96	クローン病	2
42	結節性多発動脈炎	8	97	潰瘍性大腸炎	51
43	顕微鏡的多発血管炎	1	98	好酸球性消化管疾患	1
44	多発血管炎性肉芽腫症	1	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	1	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	
46	悪性関節リウマチ	2	101	腸管神経節細胞減少症	
47	パージャール病	41	102	ルビンシュタイン・ティビ症候群	
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	26	103	CFC症候群	
49	全身性エリテマトーデス	73	104	コステロ症候群	
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	25	105	チャージ症候群	
51	全身性強皮症	9	106	クリオピリン関連周期熱症候群	
52	混合性結合組織病	20	107	全身型若年性特発性関節炎	
53	シェーグレン症候群	82	108	TNF受容体関連周期性症候群	
54	成人スチル病	4	109	非典型溶血性尿毒症症候群	1
55	再発性多発軟骨炎	1	110	ブラウ症候群	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名	患者数	疾患名	患者数
111 先天性ミオパチー	4	161 家族性良性慢性天疱瘡	
112 マリネスコ・シェーグレン症候群		162 類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	2
113 筋ジストロフィー	26	163 特発性後天性全身性無汗症	
114 非ジストロフィー性ミオトニー症候群		164 眼皮膚白皮症	
115 遺伝性周期性四肢麻痺		165 肥厚性皮膚骨膜炎	1
116 アトピー性脊髄炎		166 弾性線維性仮性黄色腫	
117 脊髄空洞症	3	167 マルフアン症候群	323
118 脊髄髄膜瘤	1	168 エーラス・ダンロス症候群	25
119 アイザックス症候群		169 メンケス病	
120 遺伝性ジストニア		170 オクシピタル・ホーン症候群	
121 神経フェリチン症		171 ウイルソン病	3
122 脳表ヘモジデリン沈着症	4	172 低ホスファターゼ症	
123 禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症		173 VATER症候群	1
124 皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症		174 那須・ハコラ病	
125 神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症		175 ウィーバー症候群	
126 ペリー症候群	20	176 コフィン・ローリー症候群	
127 前頭側頭葉変性症	7	177 有馬症候群	
128 ビッカーズスタッフ脳幹脳炎		178 モワット・ウィルソン症候群	
129 痙攣重症型(二相性)急性脳症	1	179 ウィリアムズ症候群	
130 先天性無痛無汗症		180 ATR-X症候群	
131 アレキサンダー病		181 クルーゾン症候群	
132 先天性核上性球麻痺		182 アペール症候群	
133 メビウス症候群		183 ファイファー症候群	
134 中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群		184 アントレー・ピクスラー症候群	
135 アイカルディ症候群		185 コフィン・シリス症候群	
136 片側巨脳症		186 ロスムンド・トムソン症候群	
137 限局性皮質異形成		187 歌舞伎症候群	
138 神経細胞移動異常症		188 多脾症候群	29
139 先天性大脳白質形成不全症		189 無脾症候群	72
140 ドラベ症候群		190 鰓耳腎症候群	
141 海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん		191 ウェルナー症候群	
142 ミオクロニー欠伸てんかん		192 コケイン症候群	
143 ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん		193 プラダー・ウィリ症候群	
144 レノックス・ガストー症候群		194 ソトス症候群	
145 ウエスト症候群	1	195 ヌーナン症候群	
146 大田原症候群		196 ヤング・シンプソン症候群	
147 早期ミオクロニー脳症		197 1p36欠失症候群	23
148 遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん		198 4p欠失症候群	
149 片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群		199 5p欠失症候群	
150 環状20番染色体症候群		200 第14番染色体父親性ダイソミー症候群	
151 ラスムッセン脳炎		201 アンジェルマン症候群	23
152 PCDH19関連症候群		202 スミス・マギニス症候群	
153 難治頻回部分発作重症型急性脳炎		203 22q11.2欠失症候群	18
154 徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症		204 エマヌエル症候群	
155 ランドウ・クレフナー症候群		205 脆弱X症候群関連疾患	
156 レット症候群		206 脆弱X症候群	
157 スタージ・ウェーバー症候群		207 総動脈幹遺残症	35
158 結節性硬化症	2	208 修正大血管転位症	148
159 色素性乾皮症		209 完全大血管転位症	274
160 先天性魚鱗癬		210 単心室症	191

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
211	左心低形成症候群	74	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	
212	三尖弁閉鎖症	123	260	シトステロール血症	
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	225	261	タンジール病	
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	5	262	原発性高カイロミクロン血症	3
215	ファロー四徴症	661	263	脳腫黄色腫症	5
216	両大血管右室起始症	318	264	無 β リポタンパク血症	
217	エプスタイン病	89	265	脂肪萎縮症	
218	アルポート症候群		266	家族性地中海熱	
219	ギャロウェイ・モワト症候群		267	高IgD症候群	
220	急速進行性糸球体腎炎	21	268	中條・西村症候群	
221	抗糸球体基底膜腎炎	5	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	
222	一次性ネフローゼ症候群	1	270	慢性再発性多発性骨髓炎	
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	2	271	強直性脊椎炎	
224	紫斑病性腎炎	10	272	進行性骨化性線維異形成症	
225	先天性腎性尿崩症		273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	2	274	骨形成不全症	3
227	オスラー病	11	275	タナトフォリック骨異形成症	
228	閉塞性細気管支炎	3	276	軟骨無形成症	
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)		277	リンパ管腫症/ゴーハム病	
230	肺胞低換気症候群	7	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	
231	α 1-アンチトリプシン欠乏症	2	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	
232	カーニー複合		280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	
233	ウォルフラム症候群		281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)		282	先天性赤血球形成異常性貧血	
235	副甲状腺機能低下症	12	283	後天性赤芽球癆	
236	偽性副甲状腺機能低下症		284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	1
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症		285	ファンconi貧血	1
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	2	286	遺伝性鉄芽球性貧血	
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	8	287	エプスタイン症候群	
240	フェニルケトン尿症		288	自己免疫性出血病XIII	
241	高チロシン血症1型		289	クローンカイト・カナダ症候群	1
242	高チロシン血症2型		290	非特異性多発性小腸潰瘍症	
243	高チロシン血症3型		291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	5
244	メーブルシロップ尿症		292	総排泄腔外反症	
245	プロピオン酸血症		293	総排泄腔遺残	
246	メチルマロン酸血症		294	先天性横隔膜ヘルニア	
247	イソ吉草酸血症		295	乳幼児肝巨大血管腫	
248	グルコーストランスporter1欠損症		296	胆道閉鎖症	1
249	グルタル酸血症1型		297	アラジール症候群	2
250	グルタル酸血症2型		298	遺伝性肺炎	
251	尿素サイクル異常症		299	嚢胞性線維症	
252	リジン尿性蛋白不耐症		300	IgG4関連疾患	20
253	先天性葉酸吸収不全		301	黄斑ジストロフィー	1
254	ポルフィリン症		302	レーベル遺伝性視神経症	
255	複合カルボキシラーゼ欠損症		303	アッシュヤー症候群	
256	筋型糖原病		304	若年発症型両側性感音難聴	
257	肝型糖原病		305	遅発性内リンパ水腫	
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	1	306	好酸球性副鼻腔炎	2

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
307	カナバン病		319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	
308	進行性白質脳症		320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	
309	進行性ミオクローヌスてんかん	8	321	非ケトーシス型高グリシン血症	
310	先天異常症候群		322	β -ケトチオラーゼ欠損症	
311	先天性三尖弁狭窄症	123	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	
312	先天性僧帽弁狭窄症	20	324	メチルグルタコン酸尿症	
313	先天性肺静脈狭窄症		325	遺伝性自己炎症疾患	
314	左肺動脈右肺動脈起始症		326	大理石骨病	
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症		327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	
316	カルニチン回路異常症		328	前眼部形成異常	
317	三頭酵素欠損症		329	無虹彩症	
318	シトリン欠損症		330	先天性気管狭窄症	2
			331	特発性多中心性キャッスルマン病	4
			332	膠様滴状角膜ジストロフィー	
			333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・特定機能病院入院基本料 一般病棟 7 : 1	・ハイケアユニット入院医療管理料1
・超急性期脳卒中加算	・脳卒中ケアユニット入院医療管理料
・診療録管理体制加算1	・小児入院医療管理料2
・医師事務作業補助体制加算1 (25 : 1)	・後発医薬品使用体制加算1
・急性期看護補助体制加算 25対1(看護補助者5割未満)	・地域歯科診療支援病院歯科初診料
・看護職員夜間12対1配置加算1	・新生児治療回復室入院医療管理料
・重症者等療養環境特別加算	・新生児特定集中治療室管理料1
・無菌治療室管理加算1	・総合周産期特定集中治療室管理料
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・病棟薬剤業務実施加算1	・
・病棟薬剤業務実施加算2	・
・入退院支援加算1	・
・認知症ケア加算1	・
・データ提出加算	・
・療養環境加算	・
・救急医療管理加算	・
・せん妄ハイリスク患者ケア加算	・
・排尿自立支援加算	・
・地域医療体制確保加算	・
・特定集中治療室管理料1	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・小児科外来診療料	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・糖尿病合併症管理料	・胎児心エコー法
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・ヘッドアップティルト試験
・糖尿病透析予防指導管理料	・神経学的検査
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・画像診断管理加算1
・婦人科特定疾患治療管理料	・画像診断管理加算2
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	・ポジトロン断層撮影
・夜間休日救急搬送医学管理料の注3に掲げる救急搬送看護体制加算1	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・CT撮影及びMRI撮影
・ニコチン依存症管理料	・小児鎮静化MRI撮影加算
・ハイリスク妊産婦共同管理料(Ⅱ)	・冠動脈CT撮影加算
・外来排尿自立指導料	・心臓MRI撮影加算
・薬剤管理指導料	・血流予備量比コンピューター断層撮影
・医療機器安全管理料1	・無菌製剤処理料
・医療機器安全管理料2	・人工腎臓
・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	・導入期加算1
・地域連携診療計画加算	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
・遺伝学的検査	・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の休日加算1
・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)	・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の時間外加算1
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の深夜加算1
・検体検査管理加算(Ⅰ)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の休日加算1
・検体検査管理加算(Ⅳ)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の時間外加算1
・遺伝カウンセリング加算	・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の深夜加算1
・国際標準検査管理加算	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・経カテーテル大動脈弁置換術

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・胸腔鏡下弁形成術	・凍結保存同種組織加算
・胸腔鏡下弁形成術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・麻酔管理料(Ⅰ)
・胸腔鏡下弁置換術	・麻酔管理料(Ⅱ)
・経皮的僧帽弁クリップ術	・病理診断管理加算2
・経皮的中隔心筋焼灼術	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・経皮的下肢動脈形成術	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・同種クレオレシピテート作製術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	
・両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)	
・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)	
・植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)	
・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術	
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)	
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)	
・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)	
・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)	
・不整脈手術左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)	
・補助人工心臓	
・小児補助人工心臓	
・植込型補助人工心臓(非拍動流型)	
・同種心移植術	
・同種心肺移植術	
・CAD/CAM冠	
・歯科外来診療環境体制加算2	
・胎児胸腔・羊水腔シャント術	
・輸血管理料Ⅰ	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	1週間に1回程度
剖 検 の 状 況	剖検症例数 40 例 / 剖検率 20.9 %

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
慢性期における脳卒中を含む循環器病診療の質の評価に関する研究	安田 聡	副院長	8,800,027	補委 厚生労働科学研究費補助金
先天性心疾患を主体とする小児期発症の心血管難治性疾患の生涯にわたるQOL改善のための研究	白石 公	教育推進部	25,000,977	補委 厚生労働科学研究費補助金
原発性高脂血症に関する調査研究	斯波 真理子	病態医科学部門	13,000,749	補委 厚生労働科学研究費補助金
地域における循環器疾患発症及び重症化予防に対する取組の推進のための研究	宮本 恵宏	生活習慣病部門	9,900,128	補委 厚生労働科学研究費補助金
循環器病の診療情報収集・活用のための登録様式等の詳細に係る研究	望月 直樹	理事	2,139,000	補委 厚生労働科学研究費補助金
研究倫理の質向上、機能強化、支援促進のための共有・共通基盤の整備に関する研究	松井 健志	医学倫理研究部	248,273	補委 科学研究費助成事業(補助金)
次世代型自家組織由来心臓弁グラフト(バイオバルブ)の開発研究	武輪 能明	先進医工学部門	218,245	補委 科学研究費助成事業(補助金)
好中球のRhoキナーゼ活性で冠動脈病変の進行と病態を予測する事ができるか?	渡邊 琢也	移植部門	382,296	補委 科学研究費助成事業(基金)
DNAエンコードライブラリーを用いた精子膜タンパク質を標的とした男性避妊薬の開発(国際共同)	藤原 祥高	基礎医科学部門	4,400,949	補委 科学研究費助成事業(基金)
地域一般集団と脳卒中症例の比較による終末糖化産物ペプトシジンの医学的意義の検討	渡邊 至	生活習慣病部門	101,541	補委 科学研究費助成事業(基金)
頭蓋内動脈解離の治療選択と臨床転帰に関する臨床的・凝血学的検討	古賀 政利	脳血管部門	394,680	補委 科学研究費助成事業(基金)
脂肪萎縮症の病態解明から肥満症・メタボリックシンドロームの新規治療標的の探索	野口 倫生	バイオバンク	2,242,843	補委 科学研究費助成事業(基金)
GPR40-インクレチンシグナル系による新規の脂肪肝・脂質代謝異常改善機構の解明	富田 努	ゲノム医療部門	1,933,851	補委 科学研究費助成事業(基金)
“位相差画像”を用いたCT画像ノイズ低減法の臨床応用への実証研究	西井 達矢	循環器病統合イメージングセンター	76,697	補委 科学研究費助成事業(基金)
近赤外線分光法を用いた定量的脳血流量によるくも膜下出血後脳血管攣縮の評価	加藤 真也	中央診療部門(外科系)	287,080	補委 科学研究費助成事業(基金)
稀少疾患の臨床試験のデザインと解析に関する統計的方法の研究	濱崎 俊光	臨床研究推進センター	1,432,830	補委 科学研究費助成事業(基金)
急性期脳梗塞再灌流療法に造影CT灌流画像を使用した安全性評価	井上 学	脳血管部門	1,410,646	補委 科学研究費助成事業(基金)
緊急時に対応可能な血中自己抗体の簡易除去システムの創製	姜 貞勲	先進医工学部門	1,170,000	補委 科学研究費助成事業(基金)
強度と分解速度を独立して広範囲に制御可能なシルクゲルの創出と心筋梗塞治療への応用	神戸 裕介	先進医工学部門	1,131,413	補委 科学研究費助成事業(基金)
緊急～長期使用が可能な世界最小最軽量ヘパリンフリーECMOシステムの開発と製品化	巽 英介	副オープンイノベーションセンター長	13,000,298	補委 科学研究費助成事業(補助金)
血管内皮Non-Coding RNAに着目した高血圧-認知症関連メカニズムの解明	林 真一郎	生活習慣病部門	1,950,468	補委 科学研究費助成事業(補助金)
脳出血患者への低用量トリプル配合降圧薬の安全性と有効性を検討する国際無作為化試験	豊田 一則	副院長	4,940,000	補委 科学研究費助成事業(補助金)

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ナイジェリア、ケニアの脳卒中低減を目指した医科-歯科国際連携網の構築	猪原 匡史	脳血管部門	1,430,236	補委 科学研究費助成事業(補助金)
医療ビッグデータと人工知能を用いた新次元的アプローチによる心筋梗塞発症予測	中尾 葉子	循環器病統合情報センター	2,860,000	補委 科学研究費助成事業(補助金)
低酸素で致死的影響をもたらす小胞体関連分解(ERAD)機能不全に関する研究	小亀 浩市	病態医科学部門	1,920,618	補委 科学研究費助成事業(基金)
血管内皮細胞における血栓形成促進因子VWFの極性的分泌機構に関する研究	山崎 泰男	病態医科学部門	1,951,986	補委 科学研究費助成事業(基金)
非哺乳類におけるグレリンの存在意義:胃腸管に対する作用と遺伝子改変動物の作出	海谷 啓之	基礎医科学部門	1,398,944	補委 科学研究費助成事業(基金)
血管形成における新規ALK1シグナル下流因子の分子生物学・生化学的解析	久光 隆	基礎医科学部門	1,633,715	補委 科学研究費助成事業(基金)
GLP-1の心機能への影響=心磁図を用いた刺激伝導系での解析を中心に=	玉那覇 民子	生活習慣病部門	3,584,778	補委 科学研究費助成事業(基金)
血管新生・リモデリング過程での流れ刺激に対する内皮細胞応答の可視化と機能解析	中嶋 洋行	基礎医科学部門	2,249,246	補委 科学研究費助成事業(基金)
PCSK9 の遺伝子変異及び分子型が生活習慣病に及ぼす影響とその制御機構の解明	堀 美香	病態医科学部門	2,246,172	補委 科学研究費助成事業(基金)
患者特性に基づく脂質低下療法の費用対効果に関する研究	竹上 未紗	研究推進支援部門	1,602,837	補委 科学研究費助成事業(基金)
新しい急性心不全治療戦略構築への基盤的研究-利尿薬反応性とバイオマーカーの応用-	吉原 史樹	生活習慣病部門	1,693,172	補委 科学研究費助成事業(基金)
急性期脳卒中および脳小血管病における認知機能低下に関する多施設追跡調査研究	三輪 佳織	脳血管部門	1,841,877	補委 科学研究費助成事業(基金)
質量分析法による薬剤血中濃度測定をもとにしたテーラーメイド抗凝固療法の確立	宮本 康二	心臓血管内科部門	1,174,346	補委 科学研究費助成事業(基金)
急性冠症候群レジストリ構築と東アジア人のリアルワールドデータ統合	安田 聡	副院長	1,784,185	補委 科学研究費助成事業(基金)
モデル動物と患者遺伝子検体の解析に基づく周産期心筋症の病態解明と革新的治療法開発	大谷 健太郎	先進医工学部門	1,865,300	補委 科学研究費助成事業(基金)
臨床実用化を目指した薬理的迷走神経刺激による新規心血管再生治療法の確立	李 梅花	先進医工学部門	1,493,972	補委 科学研究費助成事業(基金)
早期再分極症候群の病態解明および診断・予後指標に関する多角的研究	鎌倉 令	心臓血管内科部門	1,212,680	補委 科学研究費助成事業(基金)
希少心筋疾患、2次性心筋症を基礎心疾患とする重症心不全診療基準の確立	瀬口 理	移植部門	1,547,683	補委 科学研究費助成事業(基金)
PCSK9測定による家族性高コレステロール血症診断法・心リスク層別化法確立研究	片岡 有	心臓血管内科部門	339,423	補委 科学研究費助成事業(基金)
医療ビッグデータを用いた急性心筋梗塞症の新規「医療の質指標(QI)」の開発	中尾 一泰	心臓血管内科部門	1,557,898	補委 科学研究費助成事業(基金)
右心機能の正常化を目指した新しい肺高血圧症治療への探索的メカニズム研究	大郷 剛	寄付プロジェクト研究部門	1,748,484	補委 科学研究費助成事業(基金)
高リスク冠動脈硬化巣を認識する多面的非侵襲的画像診断法確立のための基盤研究	浅海 泰栄	心臓血管内科部門	1,857,623	補委 科学研究費助成事業(基金)

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
気管支上皮細胞のTrkBによる炎症性シグナルを介した肺高血圧症の病態機構の解明	岡澤 慎	病態医科学部門	1,057,021	補委	科学研究費助成事業(基金)
心血管形態形成および病態における内皮分化制御の分子機構	岩田 裕子	基礎医科学部門	2,905,968	補委	科学研究費助成事業(基金)
腎血管性高血圧への血行再建術の適応基準の確立と病態改善機序の解明	岩嶋 義雄	生活習慣病部門	2,144,916	補委	科学研究費助成事業(基金)
心臓ホルモンの生理作用を応用したメタボリックシンドロームの革新的治療法開発	徳留 健	基礎医科学部門	2,769,993	補委	科学研究費助成事業(基金)
ヘパリン起因性血小板減少症の免疫反応特異性解明とそれに基づく最適診断法の開発	宮田 茂樹	中央診療部門(内科系)	1,523,831	補委	科学研究費助成事業(基金)
フォンタン術後患者における高比重リポ蛋白(HDL)機能に関する臨床研究	大内 秀雄	小児循環器・産婦人科部門	1,437,744	補委	科学研究費助成事業(基金)
血小板・血管内皮機能から見たVAD装着後の後天性VW病の病態解明に関する研究	水野 敏秀	先進医工学部門	1,792,730	補委	科学研究費助成事業(基金)
骨代謝調節因子による肥満・エネルギー代謝調節の制御とその病態生理学的意義	日野 純	基礎医科学部門	1,409,661	補委	科学研究費助成事業(基金)
もやもや病に対する浅側頭動脈-中大脳動脈バイパス手術の脳血流変化と術後合併症	吉谷 健司	中央診療部門(内科系)	1,130,245	補委	科学研究費助成事業(基金)
新しい非侵襲モニターによる心臓再同期療法の遠隔期予後の予測	前田 琢磨	中央診療部門(外科系)	1,210,130	補委	科学研究費助成事業(基金)
心虚血・再灌流時のセロトニン動態への薬理的介入による心筋細胞傷害軽減の検討	秋山 剛	病態医科学部門	2,243,807	補委	科学研究費助成事業(基金)
都市部地域住民を対象とする頸動脈硬化症予防診断のためのリスクスコアに関する研究	小久保 喜弘	生活習慣病部門	2,539,739	補委	科学研究費助成事業(基金)
人種特異性に着目したゲノム解析による原因不明の心臓突然死の病態解明	蒔田 直昌	副所長	9,000,667	補委	科学研究費助成事業(基金)
鰓弓・側板中胚葉内の心臓前駆細胞発生を制御するエビジェネティック分子機構の解明	白井 学	創薬オミックス解析センター	5,850,000	補委	科学研究費助成事業(補助金)
心血管形成・ヒト血管疾患に関与するシグナル伝達系の下流遺伝子群の意義	中川 修	基礎医科学部門	5,200,697	補委	科学研究費助成事業(補助金)
心筋Na/Ca交換体の遺伝子異常がもたらす致死性不整脈症候群の新規分子病態	蒔田 直昌	副所長	5,590,000	補委	科学研究費助成事業(補助金)
抑うつに対する音の両側性刺激の効果の基礎的研究	山内 美穂	脳血管部門	2,472,620	補委	科学研究費助成事業(基金)
ソフトな分子間相互作用が造影メカニズムとなる微細血管用高分子MRIプローブ	馬原 淳	先進医工学部門	4,941,822	補委	科学研究費助成事業(補助金)
心不全治療を目的としたミオシン軽鎖リン酸化を調節する低分子化合物の開発と臨床応用	北風 政史	臨床研究推進センター	17,162,698	補委	科学研究費助成事業(補助金)
重力が駆動する新奇骨代謝メカニズムの解明	高野 晴子	基礎医科学部門	2,861,283	補委	科学研究費助成事業(補助金)
カルシウムシグナルを介した内皮機能・血管形成制御機構の研究	西谷 友重	病態医科学部門	1,190,468	補委	科学研究費助成事業(基金)
疾患特異的iPS細胞のゲノム編集・アクチン再構成による遺伝性脳小血管病の治療開発	山本 由美	先進医工学部門	1,300,000	補委	科学研究費助成事業(基金)

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
カルシウムイオン関連遺伝子変異によるLQTSの病態と臨床像の解明および治療法確立	大野 聖子	基礎医科学部門	2,183,834	補委	科学研究費助成事業(基金)
心室細動発症におけるTMEM168遺伝子変異解析とトラスレーショナル研究への応用	ZANKOV Dimitar	基礎医科学部門	1,300,000	補委	科学研究費助成事業(基金)
急性心不全のBNP前駆体プロセシング亢進による新しい代償機構の検証とその臨床応用	高濱 博幸	心臓血管内科部門	2,279,097	補委	科学研究費助成事業(基金)
虚血性心不全モデルにおける飲水行動制御と薬理的迷走神経刺激の併用治療効果の検討	鄭 燦	先進医工学部門	1,434,036	補委	科学研究費助成事業(基金)
心臓サルコイドーシスに対する抗菌薬治療の炎症進展抑制効果を検討する探索的研究	草野 研吾	心臓血管内科部門	1,441,084	補委	科学研究費助成事業(基金)
遺伝性不整脈とエピジェネティクスの関連性についての検討	服部 哲久	基礎医科学部門	2,365,207	補委	科学研究費助成事業(基金)
メカノシグナルによる心筋微小管の動的制御機構の解明と治療への応用	新谷 泰範	基礎医科学部門	545,279	補委	科学研究費助成事業(基金)
移植心冠動脈硬化症に対するPCSK9阻害剤の安全性および有効性評価	黒田 健輔	移植部門	1,839,950	補委	科学研究費助成事業(基金)
家族性高コレステロール血症の残余リスク制圧:HDLを悪玉化させる原因脂質の探索	小倉 正恒	病態医科学部門	1,733,282	補委	科学研究費助成事業(基金)
MRIと分子イメージングに基づく動脈硬化の定量的診断と新しい予防戦略の構築	野口 暉夫	心臓血管内科部門	1,743,352	補委	科学研究費助成事業(基金)
周産期心筋症の早期診断のためのバイオマーカー検査確立研究	神谷 千津子	小児循環器・産婦人科部門	1,934,165	補委	科学研究費助成事業(基金)
新規生理活性ペプチドNURPが担う新しい生体制御機構の解明	森 健二	基礎医科学部門	1,799,405	補委	科学研究費助成事業(基金)
OSTNが仲介する骨膜依存的な海綿骨形成機構の解明	高野 晴子	基礎医科学部門	2,085,037	補委	科学研究費助成事業(基金)
妊娠関連血栓性疾患の原因究明と治療法の確立を目指した研究	根木 玲子	ゲノム医療部門	2,436,093	補委	科学研究費助成事業(基金)
弱者を対象とする医学系研究に求められる倫理的配慮に関する研究	川崎 唯史	研究推進支援部門	1,244,995	補委	科学研究費助成事業(基金)
看護研究の倫理に関する研究倫理的側面からの分析調査と教育プログラムの作成	土井 香	研究推進支援部門	1,486,545	補委	科学研究費助成事業(基金)
運動が糖尿病性微小血管障害を改善するメカニズムの解明	曾野部 崇	病態医科学部門	2,575,848	補委	科学研究費助成事業(基金)
気候変動による脆弱性と効果修飾因子の相互作用に関する大規模疫学研究	小野塚 大介	研究推進支援部門	2,328,501	補委	科学研究費助成事業(基金)
ニューラルネットワークを用いたPET分子イメージングの新しい薬物動態解析	越野 一博	先進医工学部門	1,329,976	補委	科学研究費助成事業(基金)
ストレスフリーなウェアラブル指向型全血行動態モニターと循環管理システムの統合開発	上村 和紀	先進医工学部門	1,338,043	補委	科学研究費助成事業(基金)
アンチセンス薬の腎毒性を回避する新規設計法の構築	和田 郁人	病態医科学部門	2,404,790	補委	科学研究費助成事業(基金)
血管内皮細胞の成熟におけるエピジェネティック制御の研究	田中 亨	基礎医科学部門	1,300,000	補委	科学研究費助成事業(基金)

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
成体心筋細胞でのWNT/ β カテニンシグナル活性化意義の解明	千葉 彩乃	基礎医科学部門	3,175,568	補委 科学研究費助成事業(基金)
Brugada症候群における遺伝子多型が心イベントに与える影響	山形 研一郎	心臓血管内科部門	1,815,940	補委 科学研究費助成事業(基金)
高精度持続皮下測定での血糖変動と左室拡張障害の関連の検討—心筋微小循環での意義—	椋谷 真由	生活習慣病部門	1,537,959	補委 科学研究費助成事業(基金)
アミロイドPETによる高齢者心不全の病態解明と心脳連関の探究	立石 恵実	循環器病統合イメージングセンター	2,749,786	補委 科学研究費助成事業(基金)
HFpEFを伴う肺高血圧におけるRho-kinaseの役割を探索	金 慧玲	病態医科学部門	2,221,352	補委 科学研究費助成事業(基金)
虚血性心臓病の病態生理を考慮した高精度・非侵襲的な発症リスク評価法の確立研究	細田 勇人	心臓血管内科部門	1,433,720	補委 科学研究費助成事業(基金)
Mtssl遺伝子による心肥大抑制機構の解明とその臨床応用	伊藤 慎	臨床研究推進センター	1,886,724	補委 科学研究費助成事業(基金)
ブルガダ症候群研究の新展開:ゲノムによる突然死リスク予測と線維化機序の解明	石川 泰輔	創薬オミックス解析センター	2,654,224	補委 科学研究費助成事業(基金)
マルファン症候群およびその類縁動脈疾患の病態と遺伝基盤の解明および治療法の確立	柳生 剛	心臓血管内科部門	1,307,570	補委 科学研究費助成事業(基金)
体水分貯留、分布の性差、加齢変化のメカニズムの解明と心不全発症予測因子の開発	長谷川 拓也	心臓血管内科部門	3,178,686	補委 科学研究費助成事業(基金)
膠原病性肺高血圧症における炎症・組織リモデリングの解明に向けた免疫組織学的検討	大郷 恵子	中央診療部門(内科系)	2,000,040	補委 科学研究費助成事業(基金)
RNA結合タンパク質Arid5aの肺高血圧症病態における役割の解明	森 啓悦	病態医科学部門	2,558,577	補委 科学研究費助成事業(基金)
幼齡期心臓支配神経への選択的操作に伴う成熟期心筋における病態形成の解明	羽山 陽介	先進医工学部門	2,341,256	補委 科学研究費助成事業(基金)
脳保護作用を有する各種アミノ酸の探索	大和 恵子	病態医科学部門	1,836,154	補委 科学研究費助成事業(基金)
透析患者心臓関連死における大動脈弁と刺激伝導系の組織学的意義の構築	岸田 真嗣	生活習慣病部門	2,006,638	補委 科学研究費助成事業(基金)
新たなリハビリテーション法の確立に向けた表面筋電図を用いた下肢機能解析	鎌田 将星	中央支援部門	975,228	補委 科学研究費助成事業(基金)
ギャップ結合遺伝子異常による心臓刺激伝導障害の新たな分子病態の解明	蒔田 直昌	副所長	3,640,000	補委 科学研究費助成事業(基金)
マウス肺高血圧症モデルでのBDNFによる心保護作用における既存シグナル関与の検討	竹井 かずえ	血管生理学部	542,743	補委 科学研究費助成事業(補助金)
情報・形態イメージングによる左右非対称性形成機構の解明	望月 直樹	理事	9,751,155	補委 科学研究費助成事業(補助金)
患者フレンドリーな核酸医薬を実現する核酸経口剤化技術の新規基盤構築	斯波 真理子	病態医科学部門	7,410,274	補委 科学研究費助成事業(補助金)
胸部大血管および心室筋形成における細胞分化の分子機構	渡邊 裕介	基礎医科学部門	6,240,728	補委 科学研究費助成事業(補助金)
Influence of non-vascular cells in accelerated coronary aging in diabetes	Pearson James	病態医科学部門	4,030,994	補委 科学研究費助成事業(補助金)

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
GPR40ー腸内環境・細菌叢の相互作用による新規の脂質糖代謝異常の改善機構の探索	富田 努	ゲノム医療部門	2,210,000	補委 科学研究費助成事業(基金)
発生における脈管間相互作用の役割の解明	浦崎 明宏	基礎医科学部門	1,690,000	補委 科学研究費助成事業(基金)
肥大型心筋症の病態形成における心筋エネルギー代謝異常の役割の解明と治療薬の検討	杜 成坤	病態医科学部門	1,690,000	補委 科学研究費助成事業(基金)
乳児特発性僧帽弁腱索断裂の病因解明のためのトランスクリプトーム・メタゲノム解析	白石 公	教育推進部	1,690,000	補委 科学研究費助成事業(基金)
急性心筋梗塞に対する再灌流後迷走神経刺激による梗塞巣縮小効果の機序解明と最適化	稲垣 正司	先進医工学部門	1,040,000	補委 科学研究費助成事業(基金)
心臓突然死に関連する遺伝子異常・多型の解明と人工知能(AI)の応用	相庭 武司	中央診療部門(内科系)	1,690,000	補委 科学研究費助成事業(基金)
IL-6阻害による重症肺高血圧症の新規治療法開発に向けた基盤的研究	稲垣 薫克	病態医科学部門	1,690,000	補委 科学研究費助成事業(基金)
心不全および致死性不整脈に対する遠隔治療指針開発のための基盤研究	野田 崇	心臓血管内科部門	1,690,000	補委 科学研究費助成事業(基金)
病理組織解析と質量分析の統合による冠動脈硬化性プラーク破壊の機序解明	大塚 文之	心臓血管内科部門	1,040,000	補委 科学研究費助成事業(基金)
フルガダ症候群と不整脈源性右室心筋症の臨床的・分子生物学的同異性に関する検討	永瀬 聡	寄付プロジェクト研究部門	1,820,000	補委 科学研究費助成事業(基金)
経カテーテル大動脈弁留置術の予後に左室拡張機能障害が与える影響に関する検討	神崎 秀明	心臓血管内科部門	2,600,000	補委 科学研究費助成事業(基金)
好中球SiglecへのVWFとADAMTS13の結合を介したNETs形成調節機構	秋山 正志	病態医科学部門	1,430,000	補委 科学研究費助成事業(基金)
第三世代シーケンサーを用いた血栓症の遺伝的背景の解明と診断・治療への活用	宮田 敏行	脳血管部門	1,430,000	補委 科学研究費助成事業(基金)
心筋細胞のDNA損傷応答におけるDNAメチル化制御機構の役割	細田 洋司	先進医工学部門	1,690,000	補委 科学研究費助成事業(基金)
飽食シグナルとして機能する新規生理活性物質の同定と作用機構の解明	吉田 守克	基礎医科学部門	1,300,000	補委 科学研究費助成事業(基金)
心臓移植後の冠動脈病変の進行を低侵襲的に予測する方法の検討	渡邊 琢也	移植部門	1,430,000	補委 科学研究費助成事業(基金)
バルーンによる留置後ステント展開の臨床応用に向けた血管成長性と血行動態の評価	藤本 一途	小児循環器・産婦人科部門	3,120,000	補委 科学研究費助成事業(基金)
複雑心奇形のベッドサイド血行動態シミュレータの開発	清水 秀二	先進医工学部門	1,820,000	補委 科学研究費助成事業(基金)
麻酔科領域で使用するアトロピンの効果を改善するアトロピンエステルアゼ製剤の開発	山崎 悟	基礎医科学部門	1,430,000	補委 科学研究費助成事業(基金)
アミロイドβのクリアランス指標に関する地域疫学研究ー横断・縦断的検討ー	東山 綾	生活習慣病部門	1,430,000	補委 科学研究費助成事業(基金)
研究倫理コンサルテーションの質保証のための必須記録項目および記録システムの開発	會澤 久仁子	研究推進支援部門	780,000	補委 科学研究費助成事業(基金)
Understanding the pathogenesis of right heart failure in pulmonary arterial hypertension	ワディンガム マーク・トーマス	寄付プロジェクト研究部門	1,040,000	補委 科学研究費助成事業(基金)

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
Angiopoietin/Tieによる初期リンパ管新生制御メカニズムの解明	諸岡 七美	基礎医科学部門	2,080,000	補委	科学研究費助成事業(基金)
脳卒中後でんかんにおける灌流画像診断ソフト及び診断・予後評価ソフトの開発	福間 一樹	脳血管部門	2,080,000	補委	科学研究費助成事業(基金)
エクソソーム、炎症マーカー、遺伝子の解析による糖尿病における認知症発症の病態解明	松原 正樹	生活習慣病部門	1,950,000	補委	科学研究費助成事業(基金)
老化をHDLで減速させる一早老症ウェルナー症候群から探る老化と脂質のクロストーク	山本 雅	病態医科学部門	1,170,000	補委	科学研究費助成事業(基金)
脳心血管疾患での抗血栓療法中の大出血予測方法の開発、および脳小血管病の影響の解明	田中 寛大	脳血管部門	1,820,000	補委	科学研究費助成事業(基金)
透析患者の脳卒中における後天性von willebrand 症候群に関する研究	池之内 初	脳血管部門	1,170,000	補委	科学研究費助成事業(基金)
心筋MRI遅延造影画像から再現した病理画像を用いた心筋症診断法の開発	太田 靖利	循環器病統合イメージングセンター	2,860,000	補委	科学研究費助成事業(基金)
4次元ノイズ低減法を教師とした拡張知能によるノイズ低減法の心臓CTへの応用研究	西井 達矢	循環器病統合イメージングセンター	1,170,000	補委	科学研究費助成事業(基金)
高磁場MRIを用いた新生児低酸素性虚血性脳症における水分子拡散と脳代謝物の可視化	大木 明子	先進医工学部門	1,690,000	補委	科学研究費助成事業(基金)
胎生期の心臓房室弁・中隔形成における心室筋転写因子カスケードの意義	瀬谷 大貴	基礎医科学部門	2,990,841	補委	科学研究費助成事業(基金)
特発性心室細動の新展開: 網羅的な全エクソーム解析による遺伝要因と発症機序の解明	謝 珮琴	心臓血管内科部門	3,380,000	補委	科学研究費助成事業(基金)
頭蓋内動脈解離におけるゲノムワイド解析研究	溝口 忠孝	脳血管部門	2,600,000	補委	科学研究費助成事業(基金)
心臓MRI 4D flowによる心原性脳梗塞の病態解明および発症予測	井上 優子	心臓血管内科部門	3,250,000	補委	科学研究費助成事業(基金)
肺高血圧症におけるApelin陽性細胞の役割	正木 豪	病態医科学部門	2,080,000	補委	科学研究費助成事業(基金)
重症心不全に伴う二次性臓器障害の可逆性と予測指標の検討	岩崎 慶一郎	移植部門	910,000	補委	科学研究費助成事業(基金)
心筋トランスクリプトーム解析による、遺伝性不整脈の新たな病態解明	園田 桂子	基礎医科学部門	1,430,000	補委	科学研究費助成事業(基金)
光干渉断層法を用いた新しいヒス束ペーシングデリバリーカテーテルの開発	石橋 耕平	心臓血管内科部門	1,300,000	補委	科学研究費助成事業(基金)
エクソソームのオミックス解析情報に基づく新規心不全バイオマーカーの探索	錦織 充広	創薬オミックス解析センター	2,080,000	補委	科学研究費助成事業(基金)
電気生理学的機能解析を用いた早期再分極症候群の病態解明と有効な治療法の探索	高山 幸一郎	基礎医科学部門	2,080,000	補委	科学研究費助成事業(基金)
Effects of moderate exercise training and in combination with GLP-1 agonist activation on	スクマラン ビジヤクマー	病態医科学部門	2,080,000	補委	科学研究費助成事業(基金)
平滑筋細胞特異的Creで標識される血液細胞の循環器疾患における役割の解明	石橋 知彦	病態医科学部門	2,080,000	補委	科学研究費助成事業(基金)
血管作動性ペプチドCNPの糖尿病腎症における病態生理学的意義の解明	延生 卓也	基礎医科学部門	2,860,000	補委	科学研究費助成事業(基金)

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
A new therapeutic approach to diabetic nephropathy: targeting renal hypoxia by inhibition of	オー ペイ・チェン・コニー	病態医科学部門	2,210,000	補委	科学研究費助成事業(基金)
ADAMTS13の発現調節機構の解明と血栓症の病因との相関	三島 優一	病態医科学部門	1,950,168	補委	科学研究費助成事業(基金)
胸腹部大動脈周術期の脊髄血流の定量化と人工知能による脊髄虚血予測モデルの構築	四條 崇之	心臓血管外科部門	2,470,000	補委	科学研究費助成事業(基金)
植込型左室補助人工心臓術後の合併症発症予測因子としての血管内皮機能の有用性の検討	土井 誠子(中島)	移植部門	1,040,000	補委	科学研究費助成事業(基金)
LVAD装着後心室間同期不全の病態解明	島村 淳一	先進医工学部門	1,690,000	補委	科学研究費助成事業(基金)
常在細菌叢と重症心不全ならびにドライブライン感染との関係の検討	田所 直樹	心臓血管外科部門	1,300,000	補委	科学研究費助成事業(基金)
新規生体活性ペプチドに着目した妊娠高血圧腎症の病態解明と新規治療法開発	稲富 絢子	先進医工学部門	1,560,000	補委	科学研究費助成事業(基金)
脳卒中データバンクを用いた再開通治療の実態解明とデータフィードバック効果の検討	園田 和隆	脳血管部門	1,820,000	補委	科学研究費助成事業(基金)
都市部地域住民を対象とした筋力低下とメタボリックシンドローム罹患に関する追跡研究	河面 恭子	生活習慣病部門	3,250,000	補委	科学研究費助成事業(基金)
退院後心不全患者の包括的管理を可能とする革新的遠隔心臓リハビリテーションの確立	三浦 弘之	心臓血管内科部門	1,300,000	補委	科学研究費助成事業(基金)
心不全を予防する心房間シャントデバイスの個別最適化システムの開発	西川 拓也	先進医工学部門	1,950,000	補委	科学研究費助成事業(基金)
ALK1下流遺伝子TMEM100の新規転写制御機構と血管形態形成における意義	劉 孟佳	基礎医科学部門	1,430,000	補委	科学研究費助成事業(基金)
孤発性ラクナ梗塞患者におけるNOTCH3遺伝子変異の解析	鷲田 和夫	脳血管部門	1,430,000	補委	科学研究費助成事業(基金)
心疾患患者に対する早期離床、日常生活動作改善を目指したリハビリテーション法の開発	山本 壱弥	中央支援部門	1,431,010	補委	科学研究費助成事業(基金)
心筋細胞の老化を定義づけるエピジェネティック変動の解明	白井 学	創薬オミックス解析センター	2,600,000	補委	科学研究費助成事業(基金)
コラーゲン結合蛋白産生性齧蝕原性細菌の脳出血誘導機序の解明と治療法開発への挑戦	猪原 匡史	脳血管部門	3,640,000	補委	科学研究費助成事業(基金)
生体吸収素材を用いた成長する心血管系移植片の開発研究	武輪 能明	先進医工学部門	3,090,263	補委	科学研究費助成事業(基金)
エネルギー代謝を司る腸内細菌叢由来の新規ペプチド性因子の探索と機能解析	宮里 幹也	基礎医科学部門	2,600,000	補委	科学研究費助成事業(基金)
自己末梢血単核球の効率的な定着による重症下肢虚血の治療	東 倫之	生体医工学部門	1,430,000	補委	科学研究費助成事業(基金)
心磁図データの三次元シミュレーション最適平面投影による期外収縮起源同定法の開発	孫 文旭	研究推進支援部門	1,300,000	補委	科学研究費助成事業(基金)
がんサバイバーにおける心血管疾患:実態調査及びリハビリテーション効果検証	村田 峻輔	研究推進支援部門	1,430,000	補委	科学研究費助成事業(基金)
心筋Na/Ca交換体の遺伝子異常がもたらす致死性不整脈症候群の新規分子病態	蒔田 直昌	副所長	2,381,635	補委	科学研究費助成事業(補助金)

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	片岡有	冠疾患科医長	The efficacy of glycemic control with continuous glucose monitoring on atheroma progression: rationale and design of the Observation of Coronary Atheroma Progression under Continuous Glucose Monitoring Guidance in Patients with Type 2 Diabetes Mellitus (OPTIMAL)	Cardiovascular Diagnosis and Therapy,2019,Oct,431-438	Original Article
2	中西道郎	心血管リハビリテーション科医長	Combination of Peak Exercise Systolic Blood Pressure and Left Atrial Diameter as a Novel Non-Spirometry Prognostic Predictor Comparable to Peak Oxygen Uptake for Heart Failure With Reduced Ejection Fraction	Circulation Journal,2019,Jul,1528-1537	Original Article
3	柳生剛	血管科医師	Long-Term Results of Intracardiac Mesenchymal Stem Cell Transplantation in Patients With Cardiomyopathy	Circulation Journal,2019,Jul,1590-1599	Original Article
4	中尾一泰	冠疾患科医師	Prescription Rates of Guideline-Directed Medications Are Associated With In-Hospital Mortality Among Japanese Patients With Acute Myocardial Infarction: A Report From JROAD-DPC Study	Journal of the American Heart Association,2019,Apr,e009692	Original Article
5	泉知里	心臓血管内科部長	Effect of Left Ventricular Reverse Remodeling on Long-term Outcomes After Aortic Valve Replacement	American Journal of Cardiology,2019,Jul,105-112	Original Article
6	高濱博幸	心不全科医師	Change in the NT-proBNP/Mature BNP Molar Ratio Precedes Worsening Renal Function in Patients With Acute Heart Failure: A Novel Predictor Candidate for Cardiorenal Syndrome	Journal of the American Heart Association,2019,Sep,e011468	Original Article
7	中島啓裕	心臓血管系集中治療科医師	Patients With Refractory Out-of-Cardiac Arrest and Sustained Ventricular Fibrillation as Candidates for Extracorporeal Cardiopulmonary Resuscitation - Prospective Multi-Center Observational Study	Circulation Journal,2019,May,1011-1018	Original Article

8	吉本武史	脳神経内科医師	Use of Diffusion-Weighted Imaging- Alberta Stroke Program Early Computed Tomography Score (DWI- ASPECTS) and Ischemic Core Volume to Determine the Malignant Profile in Acute Stroke	Journal of the American Heart Association,2019,Nov,e01 2558	Original Article
9	安田聡	副院長	Antithrombotic Therapy for Atrial Fibrillation with Stable Coronary Disease	New England Journal of Medicine,2019,Sep,1103- 1113	Original Article
10	田所直樹	心臓外科医師	Multiple Coronary Artery Bypass Grafting for Kawasaki Disease- Associated Coronary Artery Disease	Annals of Thoracic Surgery,2019,Sep,799- 805	Original Article
11	槇野久士	糖尿病・脂質代謝内科医長	Addition of low-dose liraglutide to insulin therapy is useful for glycaemic control during the peri-operative period: effect of glucagon-like peptide- 1 receptor agonist therapy on glycaemic control in patients undergoing cardiac surgery (GLOLIA study)	Diabetic Medicine,2019,Dec,1621- 1628	Original Article
12	田中智貴	脳神経内科医師	Association of CYP2C19 Polymorphisms With Clopidogrel Reactivity and Clinical Outcomes in Chronic Ischemic Stroke	Circulation Journal,2019,Jun,1385- 1393	Original Article
13	横田千晶	脳血管リハビリテーション科 医長	Acute stroke rehabilitation for gait training with cyborg type robot Hybrid Assistive Limb: A pilot study	Journal of the Neurological Sciences,2019,Sep,11-15	Original Article
14	豊田一則	副院長	Dual antiplatelet therapy using cilostazol for secondary prevention in patients with high-risk ischaemic stroke in Japan: a multicentre, open- label, randomised controlled trial	Lancet Neurology,2019,Jun,539- 548	Original Article
15	池之内初	脳血管部門レジデント	Balloon-like Mobile Plaque in the Innominate Artery: Ultrasonographic and Pathological Perspectives of Repetitive Embolism	Journal of Stroke & Cerebrovascular Diseases,2019,Jul,e95- e97	Original Article
16	山本晴子	臨床研究管理部長	Evaluating the safety and technical effectiveness of a newly developed intravascular 'flow isolator' stent for the treatment of intracranial aneurysms: study protocol for a first- in-human single-arm multiple-site clinical trial in Japan	BMJ Open,2019,May,e020966	Original Article

17	大内秀雄	小児循環器内科医長	Abnormal glucose metabolism in patients with Fontan circulation: Unique characteristics and associations with Fontan pathophysiology	American Heart Journal,2019,Oct,125-135	Original Article
18	津田悦子	医療安全室長	Improvement of the outcome in patients with infantile dilated cardiomyopathy over three decades – The usefulness of long-term gradually medical supportive care	Journal of Cardiology,2019,Aug,189-194	Original Article
19	小西妙	産婦人科医師	Recurrent Congenital Heart Diseases Among Neonates Born to Mothers with Congenital Heart Diseases	Pediatric Cardiology,2019,Apr,865-870	Original Article
20	堀内縁	産科医師	Impact of Pregnancy on Aortic Root in Women with Repaired Conotruncal Anomalies	Pediatric Cardiology,2019,Aug,1134-1143	Original Article
21	根木玲子	遺伝相談室長	A less-intensive anticoagulation protocol of therapeutic unfractionated heparin administration for pregnant patients	International Journal of Hematology,2019,Nov,550-558	Original Article
22	大畑洋子	糖尿病・脂質代謝内科医師	Efficacy of visceral fat estimation by dual bioelectrical impedance analysis in detecting cardiovascular risk factors in patients with type 2 diabetes	Cardiovascular Diabetology,2019,Oct,137	Original Article
23	吉谷健司	輸血管理部長	Guidelines for the use of cerebral oximetry by near-infrared spectroscopy in cardiovascular anesthesia: a report by the cerebrospinal Division of the Academic Committee of the Japanese Society of Cardiovascular Anesthesiologists (JSCVA)	Journal of Anesthesia,2019,Apr,167-196	Original Article
24	服部貢士	麻酔科レジデント	Association Between Motor-Evoked Potentials and Spinal Cord Damage Diagnosed With Magnetic Resonance Imaging After Thoracoabdominal and Descending Aortic Aneurysm Repair	Journal of Cardiothoracic and Vascular Anesthesia,2019,Jul,1835-1842	Original Article
25	宇野貴哉	薬剤部 薬剤師	Comparison of CYP3A5*3 genotyping assays for personalizing immunosuppressive therapy in heart transplant patients	International Journal of Clinical Pharmacology and Therapeutics,2019,Jun,315-322	Original Article

26	松井和樹	薬剤部 薬剤師レジデント	Genetic deletion of Cav3.2 T-type calcium channels abolishes H2S-dependent somatic and visceral pain signaling in C57BL/6 mice	Journal of Pharmacological Sciences,2019,Jul,310-312	Original Article
27	北原慧	心臓血管内科部 循環器病専門修練医	Plaque erosion or coronary artery embolism? Findings from clinical presentation, optical coherence tomographic and histopathological analysis in a case with acute coronary syndrome	International Journal of Cardiovascular Imaging,2019,Oct,1791-1792	Others
28	柳生剛	血管科医師	Multiple Arterial Dissections in a Patient With Vascular Ehlers-Danlos Syndrome Caused by a Frameshift Mutation in COL3A1	Circulation Journal,2019,Oct,2324	Others
29	井上優子	不整脈科医師	You Want to See a Female Doctor – But Unluckily There’s a Lack in Japan–	Circulation Journal,2019,Aug,1842-1843	Others
30	安田聡	副院長	Antithrombotic Therapy for Atrial Fibrillation with Stable Coronary Disease. Reply	New England Journal of Medicine,2019,Dec,2481	Letter
31	小永井奈緒	専門修練医	Very Large Patent Ductus Arteriosus With Severe Pulmonary Arterial Hypertension	Circulation Journal,2019,Oct,2325	Others
32	中川頌子	心臓血管内科部 循環器病専門修練医	Earthquake-Induced Torsade de Pointes in Long-QT Syndrome	Circulation Journal,2019,Aug,1968	Others
33	舟橋紗耶華	心臓血管内科部 循環器病専門修練医	Awareness of Scleroderma Peripheral Artery Disease Presenting With Critical Limb Ischemia in Elderly Patients	Circulation Journal,2019,Apr,1081	Others
34	南公人	集中治療科医師	Type and Size of Implanted Bioprosthetic Valve Rather Than Intraoperative Peak Transprosthetic Valvular Velocity Predict Postoperative Midterm Prosthesis-Patient Mismatch in Patients Undergoing Surgical Aortic Valve Replacement	Journal of Cardiothoracic and Vascular Anesthesia,2019,Dec,3264-3270	Original Article

35	矢嶋真心	心臓外科医師	Microvascular dysfunction related to progressive left ventricular remodeling due to chronic occlusion of the left anterior descending artery in an adult porcine heart	International Heart Journal,2019,May,715-727	Original Article
36	中島誠子	移植対策室医師	Experience of the use of octreotide for refractory gastrointestinal bleeding in a patient with Jarvik2000® left ventricular assist device	Journal of Artificial Organs,2019,Dec,334-337	Case report
37	豊田一則	副院長	Guidelines for Intravenous Thrombolysis (Recombinant Tissue-type Plasminogen Activator), the Third Edition, March 2019: A Guideline from the Japan Stroke Society	Neurologia Medico-Chirurgica,2019,Dec,449-491	Original Article
38	豊田一則	副院長	Small but Steady Steps in Stroke Medicine in Japan	Journal of the American Heart Association,2019,Aug,e013306	Others
39	三輪佳織	脳血管内科医師	Effect of Enzyme Replacement Therapy on Basilar Artery Diameter in Male Patients With Fabry Disease	Stroke,2019,Apr,1010-1012	Original Article
40	鷺田和夫	脳神経内科医長	Animal Models of Chronic Cerebral Hypoperfusion: From Mouse to Primate	International Journal of Molecular Sciences,2019,Dec ,6176	Review
41	齊藤聡	脳神経内科医師	Development of a Multicomponent Intervention to Prevent Alzheimer's Disease	Frontiers in Neurology,2019,May,490	Review
42	神谷千津子	産婦人科医長	Pharmacological treatment for cardiovascular disease during pregnancy and lactation	Journal of Cardiology ,2019,May,363-369	Review
43	槇野久士	糖尿病・脂質代謝内科医長	Familial Hypercholesterolemia and Lipoprotein Apheresis	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis,2019,Aug,679-687	Review

44	岩田裕子	蛋白質機能研究室長	Blockade of TRPV2 is a Novel Therapy for Cardiomyopathy in Muscular Dystrophy	International Journal of Molecular Sciences,2019,Aug,3884	Review
45	山本晴子	臨床研究管理部長	Landiolol, an ultra-short acting beta-1 blocker, for preventing postoperative lung cancer recurrence: study protocol for a phase III, multicenter randomized trial with two parallel groups of patients	Trials,2019,Dec,715	Original Article
46	上田暢彦	不整脈科医師	Efficacy of a Device-Based Continuous Optimization Algorithm for Patients With Cardiac Resynchronization Therapy	Circulation Journal,2020,JAN,18-25	Original Article
47	角田宇司	心臓外科医師	Benefits of the Modified Bicaval Anastomosis Technique for Orthotopic Heart Transplantation From a Size-Mismatched Marginal Donor	Circulation Journal,2020,JAN,61-68	Original Article
48	鎌倉令	不整脈科医師	Long-term prognosis of patients with J-wave syndrome	Heart,2020,FEB,299-306	Original Article
49	天野雅史	心不全科医師	Occurrence of right ventricular dysfunction immediately after pericardiocentesis	Heart and Vessels,2020,JAN,69-77	Original Article
50	天野雅史	心不全科医師	Progression of right ventricular dysfunction and predictors of mortality in patients with idiopathic interstitial pneumonias	Journal of Cardiology,2020,MAR,242-249	Original Article
51	佐藤徹	脳神経外科医長(経管治療)	Coil Embolization for Unruptured Intracranial Aneurysms at the Dawn of Stent Era: Results of the Japanese Registry of Neuroendovascular Therapy (JR-NET) 3	Neurologia medico-chirurgica,2020,FEB,55-65	Original Article
52	中村悠治	小児心臓外科部 循環器病専門修練医	Successful surgical repair for common arterial trunk with anterior crisscross pulmonary arteries and right aortic arch causing right bronchial compression	General Thoracic and Cardiovascular Surgery,2020,FEB,174-176	Original Article

53	津田悦子	医療安全室長	Cardiac Valvular Lesions due to Kawasaki Disease: A Japanese Nationwide Survey	Journal of Pediatrics,2020,MAR,78-84.e2	Original Article
54	金丸晃大	脳血管内科・脳神経内科レジデント	Baseline Characteristics of Elderly Japanese Patients Aged $\geq$ 75 Years With Non-Valvular Atrial Fibrillation and a History of Stroke – ANAFIE Registry –	Circulation Journal,2020,MAR,516-523	Original Article
55	島田勝利	小児心臓外科医師	The Impact of Post-Graduate Year of Primary Surgeon on Technical Performance Score in Tetralogy of Fallot Repair	Circulation Journal,2020,MAR,495-500	Original Article
56	濱谷康弘	心不全科医師	Three-dimensional assessment of coronary high-intensity plaques with T1-weighted cardiovascular magnetic resonance imaging to predict periprocedural myocardial injury after elective percutaneous coronary intervention	Journal of Cardiovascular Magnetic Resonance,2020,JAN,5	Original Article
57	北野正尚	小児循環器内科医師	Risk Factors and Predictors of Cardiac Erosion Discovered from 12 Japanese Patients Who Developed Erosion After Atrial Septal Defect Closure Using Amplatzer Septal Occluder	Pediatric Cardiology,2020,FEB,297-308	Original Article
58	溝口忠孝	脳血管部門レジデント	Early Initiation of Direct Oral Anticoagulants After Onset of Stroke and Short- and Long-Term Outcomes of Patients With Nonvalvular Atrial Fibrillation	Stroke,2020,MAR,883-891	Original Article
59	岩田裕子	蛋白質機能研究室長	Production of TRPV2-targeting functional antibody ameliorating dilated cardiomyopathy and muscular dystrophy in animal models	Laboratory Investigation,2020,FEB,324-337	Original Article
60	片岡直也	不整脈科医師	Clinical Differences in Japanese Patients Between Brugada Syndrome and Arrhythmogenic Right Ventricular Cardiomyopathy With Long-Term Follow-Up	American Journal of Cardiology,2019,SEP,715-722	Original Article
61	濱谷康弘	心不全科医師	Survey of Palliative Sedation at End of Life in Terminally Ill Heart Failure Patients – A Single-Center Experience of 5-Year Follow-up –	Circulation Journal,2019,JUL,1607-1611	Original Article

62	濱谷康弘	心不全科医師	Prevalence, determinants, and prognostic significance of exercise-induced pulmonary hypertension in patients with hypertrophic cardiomyopathy	International Journal of Cardiovascular Imaging,2019,MAY ,837-844	Original Article
63	相庭武司	臨床検査部長	Recent understanding of clinical sequencing and gene-based risk stratification in inherited primary arrhythmia syndrome	Journal of Cardiology,2019,MAY ,335-342	Review
64	小野譲数	心臓血管外科レジデント	Successful Staged Repair for Truncus Arteriosus With Anomalous Arch Vessels and Left Coronary Artery	World Journal for Pediatric and Congenital Heart Surgery,2019,Sep,643-644	Case report
65	中島啓裕	心臓血管系集中治療科医師	Public-access defibrillation and neurological outcomes in patients with out-of-hospital cardiac arrest in Japan: a population-based cohort study	Lancet,2019,DEC,2255-2262	Original Article
66	鎌倉令	不整脈科医師	Long-term prognosis of patients with J-wave syndrome	Heart,2020,FEB,299-306	Original Article
67	濱谷康弘	心不全科医師	Multimodality imaging and three-dimensional printed model in patients with left ventricular outflow tract obstruction	ESC Heart Failure,2020,FEB,320-324	Case report
68	柳善樹	臨床検査技師	A case of right ventricular thrombus formation in Uhl's anomaly: usefulness of 3D transthoracic echocardiography for treatment follow-up	Journal of Medical Ultrasonics,2020,JAN,141-142	Case report
69	天野雅史	心不全科医師	Progression of right ventricular dysfunction and predictors of mortality in patients with idiopathic interstitial pneumonias	Journal of Cardiology,2020,MAR ,242-249	Original Article
70	天野雅史	心不全科医師	Occurrence of right ventricular dysfunction immediately after pericardiocentesis	Heart and Vessels,2020,JAN,69-77	Original Article

71	椋谷真由	糖尿病・脂質代謝内科医師	Effect of tofogliflozin on cardiac and vascular endothelial function in patients with type 2 diabetes and heart diseases: A pilot study	Journal of Diabetes Investigation,2020,MAR,400-404	Original Article
72	田所直樹	心臓外科医師	Morphology of Sinus of Valsalva After Aortic Valve-Sparing Root Replacement Using Valsalva Graft	Annals of Thoracic Surgery,2020,JAN,E59-E62	Others
73	田中智貴	脳神経内科医師	Improved quantification of amyloid burden and associated biomarker cut-off points: results from the first amyloid Singaporean cohort with overlapping cerebrovascular disease	European Journal of Nuclear Medicine and Molecular Imaging,2020,FEB,319-331	Original Article
74	孫徹	動脈硬化・糖尿病内科医長	Rationale, Design, and Methods of the Study of Comparison of Canagliflozin vs. Teneeligliptin Against Basic Metabolic Risks in Patients with Type 2 Diabetes Mellitus (CANTABILE study): Protocol for a Randomized, Parallel-Group Comparison Trial	Diabetes Therapy,2020,JAN, 347-358	Original Article

計 74 件

- 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名、出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 「倫理委員会の運営」、「委員会の責務」、「倫理審査予備調査」、「審査の方法」、「研究許可申請手続き」、「迅速審査」、「研究者等の責務」、「実施状況報告の審査」等	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 0 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 「利益相反マネジメントの対象」、「職員等の責務」、「利益相反マネジメント委員会所掌事項」、「調査結果に基づく処置」、「異議申立て」等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 4 回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 5 回
・ 研修の主な内容 「医学系研究と個人情報保護」「臨床研究倫理の基礎」「改正個人情報保護法に基づく指針改正の方向」「終末期の倫理的考え方とDNAR指示」	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

心臓血管内科プログラム
不整脈科・肺循環科・心不全科・冠疾患科・血管科・重症心不全・心臓移植・循環器救急
心臓血管外科部門プログラム
脳血管部門プログラム
脳血管内科・脳神経内科、脳神経外科
小児循環器科プログラム
小児循環器科コース・産婦人科コース・小児心臓外科コース・新生児小児集中治療コース・成人先天性心疾患コース
生活習慣病プログラム
腎臓・高血圧内科、糖尿病・脂質代謝内科、健診部・予防医療部
中央診療部門
心血管リハビリテーション科コース・病理コース・麻酔科コース・放射線コース・外科系集中治療科コース

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	119人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
野口 暉夫	心臓血管内科	心臓血管内科部長	32 年	
豊田 一則	脳血管・神経内科	副院長	33 年	
黒寄 健一	小児循環器科	小児循環器部特任部長	33 年	
藤田 知之	心臓血管外科	心臓血管外科部門長	26 年	
市川 肇	小児心臓外科	小児心臓外科部長	36 年	
片岡 大治	脳神経外科	脳神経外科部長	26 年	
吉原 史樹	腎臓・高血圧内科	腎臓・高血圧内科部長	31 年	
細田 公則	糖尿病・脂質代謝内科	糖尿病・脂質代謝内科部長	36 年	
吉松 淳	産婦人科	産婦人科部長	33 年	
福田 哲也	放射線科	放射線部長	25 年	
大西 佳彦	麻酔科	副院長	37 年	
畠山 金太	病理診断科	病理部長	30 年	
	精神科			研修プログラム無し
	呼吸器内科			研修プログラム無し
	整形外科			研修プログラム無し
	皮膚科			研修プログラム無し
	泌尿器科			研修プログラム無し
	眼科			研修プログラム無し
	耳鼻咽喉科			研修プログラム無し
	歯科			研修プログラム無し

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている

診療科については、必ず記載すること。

- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容：薬剤部レジデントコース、臨床検査技師レジデントコース ・研修の期間・実施回数：薬剤 2 年間、臨床検査 3 年間 ・研修の参加人数：薬剤 3 人、臨床検査 1 人
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容：循環器病診療に従事する看護師、診療放射線技師、臨床検査技師及び臨床工学技士に対し、高度の専門的知識及び技術を修得させ、専門職員の技術・知識の向上を図ることを目的とする。 ・研修の期間・実施回数：3 日間コース・1 回／年 2 週間コース・1 回／年 ・研修の参加人数：3 日間コース・6 8 名 2 週間コース・ 1 名

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
管理責任者氏名	病院長 飯原 弘二
管理担当者氏名	総務課長：西川 祐史、医事室長：森 隆一、情報管理室長：平松 治彦、 薬剤部長：早川 直樹

		保 管 場 所	管 理 方 法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	平成24年1月より診療記録は電子保存（電子カルテ）としている。従前のカルテ、X線フィルム等については1患者1ファイル方式とし、集中管理している。診療録等の院外持ち出しは原則禁止としている。病院長の許可を得た場合のみ可能としている。
		各科診療日誌	
		処方せん	
		手術記録	
		看護記録	
		検査所見記録	
		エックス線写真	
		紹介状	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	人事課
		高度の医療の提供の実績	医事室
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	研究医療課
		高度の医療の研修の実績	研究医療課
		閲覧実績	情報管理室
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事室
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事室 薬剤部
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全室
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全室
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全室
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全室

			保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染対策室	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染対策室	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染対策室	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染対策室	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医療安全室	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全室	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療安全室	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全室	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医療安全室	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全室	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療安全室	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全室	

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染対策室
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医療安全室
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全室
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	情報管理室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全室
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	研究医療課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	研究医療課
		監査委員会の設置状況	医事室
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事室
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全室
		職員研修の実施状況	医療安全室
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全室
		管理者が有する権限に関する状況	総務課
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課
		開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
閲覧責任者氏名	医療情報部長：平松 治彦	
閲覧担当者氏名	総務課長：西川 祐史、医事室長：森 隆一	
閲覧の求めに応じる場所	診療録等開示閲覧室	
閲覧の手続の概要		
円滑な運用を確保するため、情報公開窓口を設置し運用		
① 開示申請者から所定の申請書提出		
② 申請書を受けて開示・不開示の決定		
③ 申請者に対し開示・不開示の決定通知書の送付		
④ 当該文書等の閲覧		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0 件
閲覧者別	医 師	延 0 件
	歯 科 医 師	延 0 件
	国	延 0 件
	地 方 公 共 団 体	延 0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容： 第1章【1.趣旨 2.医療安全の基本的な考え方 3.医療安全に係る安全管理のための委員会・組織に対する基本的事項 4.患者からの相談への対応に関する基本方針 5.医療従事者と患者との情報の共有に関する基本方針 6.センターにおける事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 7.医療事故発生時の対応に関する基本方針 8.医療に係る安全管理のための職員に対する研修に関する基本方針 9.その他の医療の安全の確保のための基本方針】 第2章は、用語の定義、第1章2～9の実務的内容を記す。 【医療安全管理の具体的内容 1.医療安全推進の原則 2.医療安全管理体制、推進活動 3.用語の定義 4.院愛危機管理体制・対応 1)インシデント・医療事故等の報告、分析、改善、情報共有 2)重症回診及び医療事故発生時の対応 3)緊急報告事案 4)医療事故発生時の対応で留意する事項 5)職員への周知 5.教育研修 6.患者家族からの相談時の対応 7.その他医療安全推進活動】	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況 ・ 設置の有無（有・無） ・ 開催状況：年12回 ・ 活動の主な内容： ア)医療安全管理指針の制定、改訂に関する事。イ)医療安全管理に関する職員への教育・研修に関する事。ロ)医療安全確保を目的とした改善のための検討に関する事。ハ)医療事故等重大な問題が発生した場合の対応に関する事。ニ)医療事故の分析及び再発防止策の検討並びに立案された防止対策及び改善策の実施状況の調査及び評価、見直しに関する事。ホ)医療安全管理に関する研究、広報、院外活動に関する事。ヘ)医療安全上の訴訟に関する事。ヘ)診療に関する患者・家族からの意見、要望に関する事。コ)その他医療安全管理に関する事等	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年2回
・ 研修の内容（すべて）： 全職員対象医療安全講習会 ・ 第1回「医療安全管理の全体像」令和元年5月9日 ・ 第2回「特定機能病院に求められる医療安全」令和元年12月3日	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況 ・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： 医療安全コア会議のメンバーがコメディカルを含む構成になっており、コア会議で検討した上、医療安全推進担当者会議や院内事例検討会等の意見を集約、改善策を検討し、医療安全委員会で決定し職員へ周知している。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
・ 指針の主な内容： ① 院内感染対策に関する基本的考え方 ②院内感染管理体制 ③職員研修 ④感染症の発生状況の報告 ⑤院内感染発生時の対応 ⑥患者への情報提供と説明 ⑦その他の院内感染対策の推進	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 2 回
・ 活動の主な内容： ①院内感染症の調査、予防対策の立案 ②予防対策実施の監視と助言、指導、勧告 ③職員の教育指導 ④院内感染対策の指針及びマニュアルの作成・見直し ⑤その他委員長が必要と認める事項	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 2 回
・ 研修の内容（すべて）： ・ 求められる感染制御（職業感染対策・抗菌薬適正使用を含めて） ・ 職員全員で取り組む院内感染対策	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況 ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有)・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 感染対策室に報告がされ、感染対策室は感染対策委員会を開催し、原因究明及び感染拡大防止対策の立案を行う。加えて、必要に応じて現地調査を行い、状況を逐一院長に報告する。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年15回
・ 研修の主な内容： ・ 医薬品に関する医療安全について ・ 循環器病医療におけるリスクマネジメント（薬剤） ・ 糖尿病の薬物治療について ・ 簡易懸濁について ・ 救急カート薬剤について ・ 心不全治療薬について ・ 麻薬、毒薬、向精神薬等管理薬品の取り扱いについて ・ 抗菌薬の適正使用と注意点 ・ 不整脈・心不全治療に用いる薬について ・ 最新の循環器病疾患薬物治療について ・ 患者の服薬アドヒアランス向上の取り組み ・ 眠剤とせん妄の治療薬について ・ 免疫抑制剤について	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成（有・無） ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： 1 医薬品の採用 2 医薬品の購入 3 調剤室における医薬品の管理 4 病棟・各部門への医薬品の供給 5 外来患者への医薬品使用 6 病棟における医薬品の管理 7 入院患者への医薬品使用 8 医薬品情報の収集・管理・提供 9 手術・麻酔部門 10 集中治療室（ICU・NCU） 11 輸血・血液管理部門 12 生命維持管理装置領域 13 臨床検査部門、画像診断部門 14 歯科領域 15 他施設との連携 16 在宅患者への医薬品使用 17 放射性医薬品 18 院内製剤 19 重大な有害事象の予防・対応 20 事故発生時の対応 21 教育・研修 22 医薬品関連の情報システムの利用 医薬品安全管理責任者は手順書に従った業務遂行について確認し、行われていない場合は改善を指導、また、必要に応じて手順の改定を行っている。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備（有・無） ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： ・ オクトレオチドの適応外使用（LVAD患者の再発性消化管出血） ・ 塩酸ファスジルの適応外使用（くも膜下出血後の重症脳血管攣縮に対し動注で使用） ・ その他の改善のための方策の主な内容： ・ 医薬品メーカーおよび医薬品医療機器総合機構等から随時情報を収集 ・ 随時、医薬品の安全使用のためのお知らせを電子カルテメールで配信 - さらに内容によって全医師あてにメール配信 - 医療安全推進担当者会議、医療安全委員会で周知 ・ 重要事項は、病棟担当薬剤師に依頼し、カンファレンスや病棟にて周知 ・ 必要に応じてシステムや手順の変更を行っている。	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年63回
・ 研修の主な内容： ○第1回人工呼吸器講習会（モナールt-60、BiPAP、AVEA、DPAP、Hamilton他） ○第2回人工呼吸器講習会（モナールt-60、BiPAP、AVEA、DPAP、Hamilton他） ○第1回補助人工心臓装置講習会 （jarvik2000、EVAHEART、HM-II、HM-3、H-VAD、バイオフィロート、ニプロVAD） ○第2回補助人工心臓装置講習会 （jarvik2000、EVAHEART、HM-II、HM-3、H-VAD、バイオフィロート、ニプロVAD） ○PCPS・IABP講習会 ○閉鎖式保育器講習会 ○サイクロトロン研修 他	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 医療機器に係る計画の策定 （有・無） ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： 保守点検計画表に基づき、臨床工学技士若しくは委託業者により定期点検を実施している。また各使用部署において外観、作動状況等の日常点検を実施している。 ○日常点検（始業時点検・使用中点検・終業時点検） ○定期点検（電気的安全点検・外観点検・機能点検・性能点検・定期交換部品等の交換等） ○故障時点検（定期点検に準じた点検を行い故障箇所を特定する）	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （有・無） ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： ・ その他の改善のための方策の主な内容： 医薬品・医療機器安全情報をはじめ、メーカーからの提供情報、インターネットによる情報検索により、医療機器の安全使用関連情報を収集し、医療安全委員会等で資料を配付し、各職場で伝達している。 伝達状況については伝達確認票を回収し、確認している。	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	(有)・無
・ 責任者の資格 (医師)・ 歯科医師) ・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 医療安全担当副院長 (医師) を医療安全管理責任者として配置している	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	(有) (2名) ・ 無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 ・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 ・ 医薬品メーカーおよび医薬品医療機器総合機構等から随時情報を収集 ・ 随時、医薬品の安全使用のためのお知らせを電子カルテメールで配信 さらに内容によって医師あてにメール配信 - 医療安全推進担当者会議、医療安全委員会で周知 - 医療安全推進担当者会議は伝達確認票にて各部署への伝達を確認している。 ・ 重要事項は、病棟担当薬剤師に依頼し、カンファレンスや病棟にて周知を行い、伝達確認票に押印し、伝達状況を確認している ・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 医薬品安全管理責任者も室員である新規医療評価室にて委員会を開催し、申請内容の議論及び決定を行っている。また、病棟薬剤業務にて薬剤師が把握したものは、処方必要性、論文等の根拠に基づくリスクの検討の有無、処方の妥当性等を必要に応じて医師に確認し、医薬品安全管理責任者に報告する。医薬品安全管理責任者は必要に応じて医師に指導等を行い、院内に必要な情報の共有等を行う。 ・ 担当者の指名の有無 (有)・ 無) ・ 担当者の所属・職種： (所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種)	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	(有)・無
・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 ((有)・ 無) ・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容 ：説明事項・説明範囲・成立要件・手順・留意事項について監査結果を委員会にて報告	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： 診療情報管理室長の監督のもと、診療情報管理士が診療録等を管理し、責任者の医療情報部長に報告している	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
・ 所属職員：専従（３）名、専任（２）名、兼任（１）名 うち医師：専従（１）名、専任（ ）名、兼任（１）名 うち薬剤師：専従（１）名、専任（ ）名、兼任（ ）名 うち看護師：専従（１）名、専任（２）名、兼任（ ）名 （注）報告書を提出する年度の１０月１日現在の員数を記入すること ・ 活動の主な内容： ・ 医療安全の確保を目的とした改善のための検討に関すること ・ 医療事故等重大な問題が発生した場合の対応に関すること ・ 医療事故の分析及び再発防止策の検討並びに立案された防止対策及び改善策の実施状況の調査及び評価、見直しに関すること ・ 重大な医療事故等の発生等委員長が必要と判断した場合は、適宜開催できるものとする。 ・ 月に１回開催する医療安全推進担当者会議の重要伝達内容、インシデント・アクシデント報告、注意喚起をリスクマネージャーから各部門において、従事者全員に周知し、リスクマネージャーが伝達報告書に署名し医療安全室へ提出、モニタリングを行っている。全職員を対象とした医療安全研修会を年間２回以上開催し、受講状況を確認した。アンケート調査を実施し、医療安全に対する認識について、意識調査のモニタリングを行っている。 ※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（０件）、及び許可件数（０件） ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無） ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療	

技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（☒有・無）

・活動の主な内容：申請手続き、審査の方法等

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（☒有・無）

・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（☒有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（〇件）、及び許可件数（〇件）

・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（☒有・無）

・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（☒有・無）

・活動の主な内容：申請手続き、審査の方法等

原則として診療科等におけるカンファレンス等において検討を行った後、診療科の長より新規医療評価室に申請を行う。新規医療評価室は病院倫理委員会に意見を求め、病院倫理委員会は使用に関する倫理的・科学的妥当性及び適切な使用方法について審議し、使用の適否及び使用後に報告を求める症例数等について意見を述べる。意見を踏まえ新規医療評価室にて適否、使用の条件等を決定し、申請者に通知を行う。また、病院長に報告を行う。

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（☒有・無）

・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（☒有・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年１５５件

・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年１８件

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

・死亡患者の状況報告（重症回診の有無・警察への届出の有無等）

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・他の特定機能病院等への立入り（☒有（病院名：関西医科大学付属病院）・無）

・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（☒有（病院名：関西医科大学付属病院）・無）

・技術的助言の実施状況

＜インシデントやアクシデントの報告等の状況（報告、分析、改善策の立案及び実施等）＞

○各部署において改善策を立案される際に評価の再評価時期を決めて、その再評価結果も記録すればなおい。

→改善したことが時間の経過とともに形骸化することのないよう、再評価時期においても改善策再発防止策立案時に設定し実施できるよう努める。ラウンド時や関連会議において、アナウンス・支援を行う。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

患者相談窓口を設置し、平日の8:30～17:15に外来0番窓口にて対応する。また、窓口設置について院内掲示もしている。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

新採用者研修として、当院におけるインシデント・アクシデント発生状況と特徴、発生時の報告方法、インフォームドコンセントや医療安全に関連する記録記載時の注意点についての説明、インシデント発生後の改善策としての院内ルールについて説明を実施。

年2回実施する医療安全研修は前年度の研修時に実施したアンケートに基づき、講師を招き全職員を対象に実施。理解についてはアンケートにより把握している。

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

日本医療機能評価機構が開催する研修を受講

管理者 2020年1月7日、 医療安全管理責任者 2020年1月7日

医薬品安全管理責任者 2020年1月7日、医療機器安全管理責任者 2020年1月7日

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準 - 基準の主な内容 - 日本国の医師免許を有していること - 当センター病院又はセンター病院以外の病院において、以下のいずれかの業務に従事した経験及び医療安全管理に関する十分な知見を有するとともに、患者安全を第一に考える姿勢及び指導力を有していること - ア 医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者の業務 - イ 医療安全管理委員会の構成員としての業務 - ウ 医療安全管理部門における業務 - エ その他上記に準ずる業務 - センター病院又はセンター病院以外の病院において、病院長又は副院長及びそれらに準ずる職のいずれかでの組織管理経験があり、高度の医療の提供、開発及び評価等を行う特定機能病院の管理運営上必要な資質及び能力を有していること - センター病院の理念及び基本方針を十分に理解し、高い使命感を持って継続的かつ確実に職務を遂行する姿勢及び指導力を有していること - 基準に係る内部規程の公表の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） - 公表の方法 当センターホームページに掲載

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	☒ 有 ・ 無			
- 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） - 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） - 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） - 公表の方法				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
小川 久雄	国立循環器病研究センター理事長	○	法人理事長	☒ 有 ・ 無

望月 直樹	国立循環器病研究センター理事・研究所長		理事長が指名（理事（管理運営担当））	☒ 有 ☐ 無
稲川 武宣	国立循環器病研究センター企画戦略局長		理事長が指名（企画戦略局長）	☒ 有 ☐ 無
三井佐代子	国立循環器病研究センター病院看護部長		理事長が指名（看護部長）	☒ 有 ☐ 無
荒川 哲雄	公立大学法人大阪副理事長		大阪市立大学理事長として、医学・医療・病院運営について豊富な経験と高い識見を有する者	有 ☒ 無
中井 國雄	独立行政法人国立病院機構理事（近畿グループ担当）		病院管理者として、医学・医療・病院運営について豊富な経験と高い識見を有する者	有 ☒ 無
本田 邦章	讀賣テレビ放送株式会社顧問		報道関係者として、医療・保健・福祉全般に豊富な経験と高い識見を有する者	有 ☒ 無

**規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための
合議体の設置及び運営状況**

合議体の設置の有無	☒ 有 ☐ 無		
・ 合議体の主要な審議内容 名称：執行役員会 理事会で決定した重要事項を遂行するため、センターの所掌事務に関する事項の企画及び立案並びに調整に関する事務を総括整理するとともに、理事会の任務を補佐するため、センターの運営の方針、計画、予算及び決算その他のセンターの運営に関する重要な事項について審議する。 ・ 審議の概要の従業者への周知状況 各部署の部長等会議により、執行役員会での審議事項を報告し、各部署へ周知している。 ・ 合議体に係る内部規程の公表の有無（ 有 ☒ 無 ） ・ 公表の方法 ・ 外部有識者からの意見聴取の有無（ ☒ 有 ☐ 無 ） 執行役員会に、非常勤監事2名（公認会計士及び弁護士）がオブザーバー参加し、意見を述べていただいている。			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
小 川 久 雄	○	医 師	理事長

望 月 直 樹		医 師	理事・研究所
稲 川 武 宜		事 務	企画戦略局長・企画経営部長
小 林 順二郎		医 師	病院長
安 田 聡		医 師	副院長
豊 田 一 則		医 師	副院長
飯 原 弘 二		医 師	副院長
宮 本 恵 宏		医 師	オープンイノベーションセンター長
巽 英 介		医 師	副オープンイノベーションセンター長
山 本 晴 子		医 師	理事長特任補佐
穴 戸 稔 聡		医 師	理事長特任補佐
宮 下 克 巳		事 務	総務部長・人事部長
石 井 厚 司		事 務	財務経理部長
中 森 幸 雄		事 務	移転建替推進部長
平 松 治 彦		事 務	情報統括部長
木 村 尚 巧		弁護士	コンプライアンス室長
老 田 章		薬剤師	薬剤部長
三 井 佐代子		看護師	看護部長

規則第 15 条の 4 第 1 項第 1 号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ 有 ☒ 無 ）
- ・ 公表の方法
- ・ 規程の主な内容

人事委員会規程（管理者が副委員長）において、「特定機能病院としての機能を確保するために病院長が必要と認めた人事に関すること」を委員会での審議事項の一つとしている。

また、理事会規程においては、「理事会において、国立循環器病研究センター病院の運営方針、中期計画、予算及び決算、その他の病院の運営に関する重要な事項が審議される際には、病院長は出席して意見を述べることができる。理事会は、その意見について十分審議した上で決定しなければならない。」としている。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

組織規程において、「副院長は、院長を助け、病院の事務を整理する」と規定している。

また、総務、人事、財務経理、企画経営等の各事務部門においても、管理者を積極的にサポートしている。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

国立病院機構、厚生労働省との人事交流により医療行政、病院の運営管理に精通する人材の確保に努めている。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する
監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	☒ 有 ・ 無				
・ 監査委員会の開催状況：年 2 回 ・ 活動の主な内容 病院の医療安全にかかる活動報告、インシデント・アクシデント事例報告 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 委員名簿の公表の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 委員の選定理由の公表の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 公表の方法 当センターホームページに掲載					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 （○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
小島 崇宏	大阪 M&A 法律事務所	○	法律に関する識見を有する	有 ・ ☒ 無	1
國子 克雄	心を守る会		医療を受ける者	有 ・ ☒ 無	2
安田 聡	国立循環器病研究センター		医療安全部外の立場からの監査	☒ 有 ・ 無	3

- （注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
 3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に
適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・ 体制の整備状況及び活動内容

コンプライアンス推進規程を整備し、管理者を含む役職員が全ての法令等を遵守し、社会規範を尊重するとともに、センターの業務活動が高い倫理性を持って行われることを確保するためのコンプライアンスの推進に必要な事項を定めている。

また、管理者を含む役職員の法令遵守の状況を検証するため、2 か月に 1 回コンプライアンス委員会を開催している。

・ 専門部署の設置の有無 (☒ 有 ☐ 無)

・ 内部規程の整備の有無 (☒ 有 ☐ 無)

・ 内部規程の公表の有無 (☐ 有 ☒ 無)

・ 公表の方法

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る
体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 当センターの理事会において審議する事項として、業務方法書、中期計画・年度計画に関する事項、財務諸表・決算報告書及び事業報告書に関する事項等に加え、特定機能病院の業務に関する事項についても審議することとして理事会規程に定めている。 また、同規程において「病院の運営方針、中期計画、予算及び決算、特定機能病院の業務に関する事項その他の病院の運営に関する重要な事項が審議される際には、病院長は出席して意見を述べることができる。」と規定し、原則として毎回出席している。 ・ 会議体の実施状況（ 年 12 回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ ☒ 有・無 ）（ 年 12 回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有 ☒ 無 ） ・ 公表の方法			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：理事会			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
小 川 久 雄	理事長（内部統制担当役員）	○	有 ☒ 無
望 月 直 樹	理事・研究所長・研究開発基盤センター長		有 ☒ 無
尾 崎 裕	大阪商工会議所会頭		有 ☒ 無
瀧 原 圭 子	大阪大学キャンパスライフ健康支援センター教授		有 ☒ 無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に
疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況

- ・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（☒有・無）
- ・ 通報件数（年 0 件）
- ・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための
方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（☒有・無）
- ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（☒有・無）
- ・ 周知の方法
役職員一斉メール・電子カルテ周知事項掲載

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	☒ 有 ☐ 無
・ 評価を行った機関名、評価を受けた時期 日本医療機能評価機構による病院機能評価 平成 27 年 6 月 5 日認定（平成 27 年 3 月 11、12 日受審）	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	☒ 有 ☐ 無
・ 情報発信の方法、内容等の概要 ホームページで循環器に関する主な疾患について、その原因や治療法などについて分かりやすく紹介している。 定期的に市民公開講座を開催し、循環器疾患かかる情報提供・啓蒙活動を実施している。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	☒ 有 ☐ 無
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 各診療科にコンサルティングドクターを設けており、速やかな連携を図っている。	